

# 農閑期に農機具を整備・点検しよう！

個人でできる日常のメンテナンスにより、修繕費が節約でき、農機の寿命が延ばせます。農閑期に「清掃・点検・整備」して、トラブルを未然に防ぎましょう。

## その1. まずは清掃・注油。次に点検！

清掃は点検整備の出発点です。清掃の際に、ヒビ、サビなどの問題箇所を早期発見できます。清掃後には可動部への注油やグリスアップをしましょう。その後、可動部が適切に作動するか、劣化がないか点検します。

- 駆動部 → 異音や振動が無いかな？
- ベルト・チェーン → 張りが適切か？ 劣化はないかな？
- ホース類 → ひび割れなどの劣化がないかな？
- エンジンやチェーンケースなど → 油のにじみや漏れがないかな？
- タイヤ → 空気圧が適正か？ 劣化がないかな？

※ 原因不明の異音や振動、オイルシールからの油のにじみなど作業が難しい箇所は、農機センター・販売店に修理を依頼しましょう。

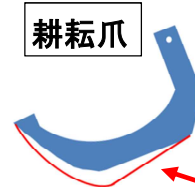
## その2. 耕耘爪、こぎ歯は早めに交換！

過度の摩耗は作業効率を低下させます。適切な時期に交換しましょう。

- コンバインこぎ歯 → 摩耗もしくは変形したら交換（枝梗付着・こぎ残しが出たら交換）
- ロータリ 耕耘爪 → 摩耗もしくは破損したら交換



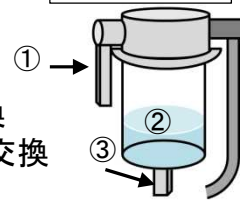
こぎ歯の摩耗は、こぎ残しなど選別不良の原因になります。



耕耘爪が摩耗すると、すき込み性能が悪くなり、爪の脱落の原因にもなります。

摩耗部分

### 油水分離器



燃料コックを閉め、ドレンがある機種は下部パイプより排水、ない機種はカートリッジを外し水を抜きましょう。

- ① 燃料コック
- ② カートリッジ
- ③ ドレン

## その3. エンジンまわりも忘れずに！

エンジンのメンテナンスで、農機の性能を保ち寿命を延ばせます。適切な時期に整備しましょう。

- エンジンオイル → 100時間(初回50時間)を目安に交換
- エアフィルタ → 定期的に清掃し、300時間を目安に交換
- 冷却水 → 残量確認し、不足がある場合は追加(1~2年を目安に交換)
- 水抜き → 油水分離器※から定期的に水抜き

(※燃料フィルタと一体になったもの、独立したものがあります。)

## 整備は農閑期に済ませましょう！

自分でできるところは点検・整備して、作業が難しい所は、農機センター・販売店へ。なお、整備時は作業帽・作業着など、作業に適した服装で作業しましょう。